

民衆の声
ボイス

No.108

公明党 横浜市会ニュース VOICEよこはま

<http://www.yhkomei.com/> E-mail:shikai@yhkomei.com 公明党横浜市会議員団 〒231-0005 横浜市中区本町6-50-10 TEL671-3023 FAX681-2060

令和6年 第2回定例会報告

10月から
申請受付

補正予算で子育て・教育施策を補強！



いじめ・不登校対策のための学校体制強化や子育て支援など、公明党横浜市会議員団の要望を反映した重要な議案が議決されました。

特に、妊婦健康診査の支援拡大については、指定都市平均額を大きく下回る横浜の公費負担を早急に引き上げるよう、市長へ要望書を提出し、「令和6年度中の出来るだけ早期の実施に向けてしっかり取り組む」との回答を得ていました。

●妊婦健康診査の公費負担を拡充し、妊婦の経済負担を軽減

- 現状の助成額82,700円（補助券）に加えて **+50,000円を現金支給**
- 横浜市内に住民登録があり、令和6年4月1日以降に妊婦健診を1回以上受診した方を対象
- 横浜市子育て応援サイト・アプリからも申請可能に



●スクールカウンセラーの配置拡充

- 9月から順次、現状の約160名に +53名を追加配置
- 市立の中高・高等特別支援学校への配置日数を倍増

スクールカウンセラーの心理面の専門性を活かして、児童・生徒が抱える様々な課題（不登校やいじめ、学習関連）について、学校現場での解決のためのアドバイス等を行います。



■物価高騰に4万円の減税がスタート

〔納税世帯〕 所得税3万円・住民税1万円 =合計4万円(1人当たり)を減税 6月開始



地震や大雨情報を自動でテレビでお知らせする「よこはまテレビ・プッシュ」がスタート



公明党横浜市会議員団
南区政務調査事務所 所長
横浜市会議員
仁田まさとし



仁田まさとし 検索
QRコード メルマガの登録はこちらへ



6月から横浜市は、テレビの電源を自動で起動し、緊急地震速報等の緊急情報を音声とテレビ画面でお知らせする「よこはまテレビ・プッシュ」補助事業を開始しました。横浜市防災情報Eメールやレアラート等と連携し、リアルタイムに情報が配信されますので、視覚的に分かりやすい画面表示と、シンプルな操作性で、誰でも使いやすくなっています。また、災害・防災情報に加え、電車運行情報やPM2.5情報、休日夜間診療所問合せ先等の生活情報を配信しますので生活の利便性が向上します。



実証実験について意見交換

補助対象者は、「横浜市民」であり「災害情報の取得に不安を感じている方」です。初期費用は〔専用端末費〕16,500円、〔設置・設定費〕12,100円ですが全額を横浜市が補助します。設置開通後の月額550円（税込）が自己負担額となります。利用にはインターネット環境が必要です。

★お問い合わせやお申し込みは、
イツツ・コミュニケーションズ株式会社まで。
電話：0120-109-199、
E-mail : info@itscom.jp

※補助件数が1,000件に達した時点で
令和6年度の事業は終了予定です。



新たな介護予防サービス

南区等で先行実施!

高齢者の自立した生活を支援

高齢者の保健事業と介護予防の一体的な実施で、疾病の重症化予防やフレイル*予防を図る事業が始まりました。本年度は、南区、栄区、泉区で先行実施されます。

できる限り多くの高齢者が自立した生活を送ることを目標とします。

*フレイル：年齢を重ねたり、病気になったりすることで、体力や気力、認知機能など、からだとこころの機能が低下し、将来介護が必要になる危険性が高くなっている状態

＜ハイリスクアプローチ＞

脳血管疾患を含めた糖尿病・循環器疾患等の重症化予防や、身体的フレイル・身体的フレイルと関係の深い低栄養や口腔機能低下のリスクがある高齢者を支援します。

対象者は国民健康保険情報等から把握され、案内が送られます。同意が得られた方に対して医療専門職による訪問支援や民間事業者との連携による通所型集団支援が行われます。



＜ポピュレーションアプローチ＞

民間企業等と連携して高齢者対象の地域の通いの場等でフレイル予防等の普及啓発や健康教育・健康相談を実施します。また、通いの場等でのフレイルチェックシートによりフレイル状態であることが把握された場合にはハイリスクアプローチへつなぐことになります。

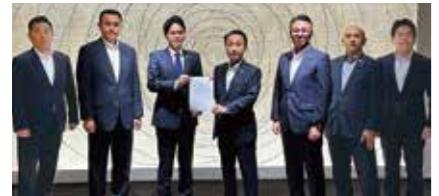


政務活動最前線

中小企業や エッセンシャル ワーカーの 賃上げを!

5月23日に、山中市長に「横浜市から国への要望事項について」の要望書を提出しました。

結果、社会の土台を支える中小零細企業の賃上げ支援の拡充をはじめ、保育士、介護士の賃上げを求める公明提案が盛り込まれました。



政策懇談会を実施

6月12日から19日の1週間にわたり公明党横浜市会議員団の政策懇談会を開催し、医療・介護・福祉分野をはじめ、子育て・教育、建築・建設などの多分野にわたる38団体の皆さんとの意見交換を行いました。

公明党横浜市会政策懇談会



懇談会の風景(横浜市病院協会)

公明党横浜市会議員団、新しい構成により議会がスタート

仁田 昌寿 (南区) <small>議会議員 健康福祉・医療委員会 神奈川県後期高齢者医療広域連合 議会議員</small>	竹野内 猛 (金沢区) <small>政務調査会事務局長 減災対策推進特別委員会(委員長) 大都市行財政制度特別委員会(副委員長)</small>	安西 英俊 (港南区) <small>政務調査会副会長 国際・経済・港湾委員会(委員長) 新たな都市活力推進特別委員会 市会運営委員会(理事)</small>	中島 光徳 (戸塚区) <small>政務調査会会长 市民・にぎわい・スポーツ文化・消防 委員会 減災対策推進特別委員会 新たな都市活力推進特別委員会 市会運営委員会(委員長)</small>	行田 朝仁 (青葉区) <small>副団長 市民・にぎわい・スポーツ文化・消防 委員会 減災対策推進特別委員会 新たな都市活力推進特別委員会 市会運営委員会(委員長)</small>	望月 康弘 (港北区) <small>副団長 市民・にぎわい・スポーツ文化・消防 委員会 減災対策推進特別委員会 新たな都市活力推進特別委員会 市会運営委員会(委員長)</small>	齊藤 伸 (保土ヶ谷区) <small>副団長 下水道河川・水道・交通委員会 健康づくり・スポーツ推進特別委員会 大都市行財政制度特別委員会 みどり環境・資源循環委員会 脱炭素・GREENEXPO推進委員会</small>	福島 直子 (中区) <small>第61代副議長 健康づくり・スポーツ推進特別委員会 大都市行財政制度特別委員会 みどり環境・資源循環委員会 脱炭素・GREENEXPO推進委員会</small>
武田 勝久 (磯子区) <small>副議長 健康づくり・スポーツ推進特別委員会 大都市行財政制度特別委員会 みどり環境・資源循環委員会 脱炭素・GREENEXPO推進委員会 議会広報会議 郊外部再生・活性化特別委員会</small>	市来 栄美子 (都筑区) <small>副議長 健康づくり・スポーツ推進特別委員会 大都市行財政制度特別委員会 みどり環境・資源循環委員会 脱炭素・GREENEXPO推進委員会 議会広報会議</small>	久保 和弘 (瀬谷区) <small>副議長 建築・都市整備・道路委員会 基地対策推進特別委員会 市会運営委員会</small>	木内 秀一 (旭区) <small>副議長 建築・都市整備・道路委員会 基地対策推進特別委員会 市会運営委員会</small>	尾崎 太 (鶴見区) <small>副議長 政策経営・総務・財政委員会 新たな都市活力推進特別委員会 市会運営委員会(副委員長)</small>	竹内 康洋 (神奈川区) <small>副議長 政策経営・総務・財政委員会 新たな都市活力推進特別委員会 市会運営委員会(副委員長)</small>	高橋 正治 (緑区) <small>副議長 健康づくり・スポーツ推進特別委員会 大都市行財政制度特別委員会 みどり環境・資源循環委員会 脱炭素・GREENEXPO推進委員会 新たな都市活力推進特別委員会 市会運営委員会(副委員長)</small>	

地域での移動手段の確保を

京急バスが行う、金沢区能見台エリアでの自動運転バスの運行や本社からの遠隔監視設備による運転を体験しました。多様化するニーズに対する、地域交通の最新の実証実験です。「住宅地から最寄り駅まで、駅から勤務先・学校まで」のような従来の通勤・通学輸送に加えて「地域内での小さな移動手段」の実現は喫緊の課題です。



差別のない未来を目指して

京都宇治市にある在日コリアンの集落「ウトロ地区」にある平和記念館を訪問しました。戦後も、壮絶な人種差別により、上下水道などの生活インフラも整備されず日本社会から置き去りにされてきた町です。本館へ足を運んだのは公明党が初めてとのことで、人権と平和から差別のない未来を構築してまいります。



障害児者の歯科医療の課題

日本航空(株) (JAL) と横浜市の連携協定による事業として、家庭からの廃食油回収ボックスを市内で最初に設置したイオンフードスタイル鴨居店を訪問しました。

回収後は、SAF (※持続可能な航空燃料) を製造します。資源の有効利用、環境負荷低減にむけての回収状況や今後の展開について確認しました。



メタバースで、若者の生きづらさ解消へ

横浜市立大学・宮崎智之教授をお招きし、近年、増加する不登校をはじめ、離職、引きこもりなどでの若者の生きづらさが多様化する状況、またメタバースを活用した解消への取り組みを学びました。「心を大切にする文化を醸成したい」という根本的な発想に深い感銘を受けました。



病気と闘う子供や家族を支援

横浜こどもホスピス『うみとそらのあうち』を訪問し、田川尚登代表理事よりご案内頂きました。

同施設は、生命に関わる病気と闘う子供や家族を支える施設です。地域コミュニティ型の通所施設として社会において大切な場であり、施設の全国展開が期待されます。